

【青葉区】令和5年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和5年6月12日（月） 午後2時30分から午後3時50分まで
場 所	青葉市役所4階会議室及びWEB会議室
出席者	【座 長】横山正人議員 【議 員：6名】田中ゆき議員、山下正人議員、伊藤くみこ議員、 藤崎浩太郎議員、行田朝仁議員、おさかべさやか議員
	【説明局員（青葉区）：22人】 中島区長、吉田副区長、青木福祉保健センター長、 壺井福祉保健センター担当部長、鈴木青葉土木事務所長、 瀬上青葉消防署長、ほか関係職員
議 題	(1) 令和5年度 青葉区運営方針について（報告） (2) 「令和5年度 青葉区に係る予算のすがた」について (3) 「令和5年度 個性ある区づくり推進費 執行状況」について
発 言 の 旨	おさかべ議員 現在、5歳と6歳の子育て中だが、今週末の最高気温が30度の予報が出る中、夏は公園の遊具が熱くなって遊べない。区内にはこどもの国のじゃぶじゃぶ池しか水遊び場がない。青葉区は公園数が230箇所と市内で一番多く、全て回ったところ、せせらぎや噴水など子供が遊べる場所がなく、親水公園は、もえぎ野、藤が丘、桜台の3箇所のみ。誰もがいきいき、ということでは、未就学児童はおむつが取れていないとプールに入れないので、そういう子たちの水遊び場があると、子育て世代にとっては遊び場として使いやすいと思って青葉区で生活している。そのあたりはいかがか。
	天下井青葉土木事務所副所長 おっしゃるとおり、子供のじゃぶじゃぶ池は青葉区にはない。ただ、桜台公園は親水が流れていて、少し大きいお子さんに遊んでもらえる場所である。じゃぶじゃぶ池は水質等の衛生管理をしっかりしてつくる必要があるが、予算もあるので、関係部署と調整し、市民の皆さんの意見も踏まえて検討していくことになると思う。現状ではつくる予定はない。
	おさかべ議員 桜台公園は2年ぐらい前まで、入ってはいけないという看板があったが、土木事務所において撤去してもらった。ただ、やはり小枝などが放置されていて、夏に遊べるような対応は特にされていないと思うが、いかがか。
	天下井青葉土木事務所副所長 じゃぶじゃぶ池はせせらぎのようなもので、未就学児がはだしで歩ける池にはなっていない。葉っぱや枯れ枝が落ちていたりごみがあったりするので、愛護会や職員もパトロールして清掃活動をしているが、毎日に行けないため管理が行き届かない点もある。未就学児が安心して遊べる池を専用でつくとすると管理や予算の問題もあるので、本局と調整していきたい。
	藤崎議員 30周年に向けて書かれているが、区長が2か月半務められて、率直に今、どのように青葉区を感じているか、区長としての思いを伺いたい。
中島区長 この2か月はあっという間に過ぎたように感じている。各地区連合の総会にご挨拶にお伺いしたり、春季少年野球など区内のスポーツイベントなどにも参加させていただいた。第一に感じたのは、区民の皆さんは町を自分たちでよくしようという気持ちが強いことだ。皆さんが自助と共助をしっかりと行っていることに対して、我々区役所はさらに公助の形でできることをやっていかなければいけないと、区民の皆さんの発言や言動を通じて改めて感じる。 また、区内を移動するに当たり、青葉区の道路事情が非常に良いことも感じている。東急をはじめ開発事業者の方が、開発地区だけでなく全体を見てつくったことを改めて感じる。この恵まれた区に区長として就任させていただいたことを、とてもありがたく思う。	

藤崎議員	<p>町を自分の手で良くしたいという区民の皆さんの主体性が非常に強い地域だから、区職員がどうやって寄り添っていくか、その役割が大きな区だと思う。30周年は中島区長の下で迎えられと思うので、ご尽力いただきたい。</p> <p>8ページの乳幼児の食育支援事業について、対象者数は想定に対してどれくらい来ており、この数字をどのように見ているか。また、YouTube「なしかちゃんねる」は、再生回数が多いものだと数千回のものであるので、離乳食講座等の定型講座に都合がつかず来られない方に、「なしかちゃんねる」などを活用して動画配信できると、より皆さんに情報を伝えられていいのではないかと。</p>
西橋福祉保健課長	<p>参加人数は、おおむね想定通りと思っている。離乳食スタート講座は結構多いように見えるが、これは4か月健診に合わせて開催し、その中で興味のある方に参加していただいていることによる。動画配信等も今後検討できたらと思う。離乳食教室は、コロナの関係で試食ができない状態だったが、今年は実施したい。来られない方もたくさんいるので、動画だと試食はできないが、興味を持っていただけるよう工夫して何かできないかを検討させていただきたい。</p>
壺井福祉保健センター担当部長	<p>「なしかちゃんねる」については、「おかわりなしかちゃんねる」というインスタグラムで給食のレシピなどのご紹介もさせていただいている。併せて保育所の給食体験を実施することで、乳幼児の健全育成を図っていきたく考えている。</p>
藤崎議員	<p>動画で伝えるのは難しいこともあると思うが、せっかくいろいろなことをやっているのだから、ぜひ工夫していただきたい。予算の都合などもあると思うが、より多くの方に情報が伝えられるし、講座を受けても覚え切れなかったり全員がメモできるわけではないので、復習用に使える。</p> <p>9ページ目のDV専門相談事業の執行状況の件数は、これだけ見ると多いのか少ないのか分からないので、その辺の把握状況を教えてほしい。アプリの「Aonico（あおにこ）」では、子供を虐待しているかもしれないと思った人が見るページが用意されており、相談につなげられる。虐待とDVは一体不可分なところもある。相談事業自体を幅広く伝えていくには、既存のアプリなどをうまく活用していくことも重要ではないかと。</p>
高田こども家庭支援課長	<p>DV専門相談事業は、DV相談や女性の福祉に関する問題の相談に来た方のうち、法律的な相談が必要な方に対し女性福祉相談員から弁護士相談につながるものです。希望者を募って相談を受けるものではなく、月2回、1回に2件ずつ弁護士の先生にお願いして相談を受けていただいている。「Aonico（あおにこ）」でのDV相談等へのつながりは、まずは女性福祉相談につながる形で案内できるといいのではないかと。</p>
藤崎議員	<p>事業の趣旨を理解せず失礼した。いずれにせよ、いろいろな方にいかに情報を伝えられるかということ。自分で何かしようと思ったときに情報の有無は非常に重要なので、新しいものをつくるのも手だが、今あるものを活用して皆さんに情報を伝えるのも重要だ。</p> <p>最後に、40ページ、シェアサイクルの稼働状況を伺いたい。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>実際に自転車が出た台数は、5年度の目標が横浜市全体で月に7万1250回、利用者で2万6600人となっている。4年度の実績は、利用回数で月3万3700回、利用者数で1万1500人となっている。</p>
藤崎議員	<p>この5月から始まった青葉区内5か所26台部分については、1か月でどのぐらいの稼働状況か。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>新設されたところの利用実績はまだ把握していないが、24か所から5か所増えて29か所あるので、これから実績等も取っていききたい。</p>
田中議員	<p>以前も似た質問をしたことがあるが、7ページの(10)こども家庭相談で、「こども本人からの相談にもつながるよう広く配布します」となっているが、どのような形でこども本人からの相談につながる工夫がされているか。</p>

高田こども家庭支援課長	こども家庭相談は区役所で相談を受けているが、相談対応時間はこども本人が学校にいる時間帯であり、区での相談にはつながりにくいと思われる。区のこども家庭相談だけでなく、局が県と一緒にやっているLINE相談などを周知していけるようにしたい。これから新たに妊娠SOSのLINE相談なども始まるので、局の周知方法も確認しながら周知していきたい。
田中議員	例えば、小学校の保健室などに貼ったり、こどもが見られるようなところにも配布するイメージでよろしいか。
高田こども家庭支援課長	こどもの目につきやすいように、カード型のものを商業施設に置いてもらうなど検討していきたい。
田中議員	こどもからは相談しにくいこともあると思うが、相談しやすい環境を引き続きお願いしたい。 次に、39ページのあおば地産地消推進事業の区役所でのマルシェには、いろいろな出店者がいると思うが、どのような基準で月ごとの出店者が決まっているのか。
渡辺区政推進課長	出店者については、青葉区内の生産者で、かつ、青葉区内で横浜市産の農畜産物を使用した加工品の製造を行っている者、農福連携に取り組んでいる団体、地産地消サポート店、はまふうどコンシェルジュが所属する団体という形で出店の基準を設けている。こういった基準に照らし合わせてマルシェに出店いただいている。
田中議員	以前、出店し始めた方々の中には、毎月の出店のために予定を空けていたのに、今月は来なくていいとか、本当は出店したいのに出せないような状況でご無沙汰になってしまっているところがあり、ちょっとモチベーションが下がったりということがある。これはスペース上の問題などで選定しているのか。
渡辺区政推進課長	もちろん出店状況を鑑みてその都度判断しているが、モチベーションの低下につながるような取組であってはいけないので、自分の方で運用実態をもう少し把握して、今後はもう少しうまく調整できるように配慮しながら進めたい。
田中議員	出店される方や出店したい方は毎月もう少しいると思うので、予算やスペースの関係などと思うが、何とか出店できるようにお願いしたい。 次に、40ページの脱炭素化促進イベントは、「こどもから大人までわかりやすく楽しみながら学べるイベントを開催します」という拡充になっているが、運営方針で、横浜発の新技术（ペロブスカイト太陽電池）を活用した機運情勢が、青葉区に関連する主な事業にあると思う。青葉区発の技術であるペロブスカイト太陽電池に関連したイベントなどを開催する予定や計画はあるか。
渡辺区政推進課長	現在決まった予定はないが、区としても桐蔭横浜大学の宮坂教授が開発されたペロブスカイトを区民の皆様にもご理解いただき、薄くて曲がるすばらしい電池があることを周知していきたい。桐蔭横浜大学をはじめ温暖化対策本部と連携しながら、周知できるよう調整を行っている。今年度も広報よこはまの特集や、11月、12月にかけて脱炭素のイベントを計画しているので、この電池を展示して広く周知したい。
田中議員	イベントの周知から大切だと思うが、東京都等では下水道施設での実証実験も本格的に始まっているようなので、ぜひシェアサイクルとかも、青葉区で実証実験できるような環境を整えていただきたい。 最後に、運営方針の、バス路線の維持・充実について連節バス導入に向けて進めていると思うが、以前、地域の皆さんからアンケートを取ったときに、今ある便を確保してほしいという声や、ルートの変更を考えてほしいという声があったと思う。その進捗等について情報があったら教えてほしい。

井波区政推進課担当課長	<p>青葉台から日体大までの間を結ぶ連節バスに向けて、そこを通るルート of 整備等も含めて調整している。それと、玉川学園台や奈良方面に行くバスの便数を少し増やす持続可能な話と併せて、調整中である。以前アンケートを取ったときに、回り方で意見が分かれたが、現在は玉川学園の奈良方面から青葉台の日体大の連節バスに向ける形で調整が進んでいる。</p>
田中議員	<p>以前出たA案、B案だと、今も現存している便がほぼないか2便しかなく、地域の通勤・通学している方たちからは、通勤・通学時の朝と夕方の便は残してほしいとの声も上がっているが、そういう声が届いている状況や、それを検討できるような状況はあるのか。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>その部分も含めて議論しているが、直行便を残すか、残さないで逆に便を増やして日体大のほうに回るのがいいのかといったことや、日体大に回るルート等も含めて議論を進めている。</p>
田中議員	<p>このアンケート結果の声にお応えできるというか、地域の声を反映した再編にしていきたいと思う。</p>
山下議員	<p>区長にご質問したい。青葉区は「住みつづけたい・住みたいまち 青葉」というキャッチフレーズを出し続けている。住宅不動産サイトでは、たまプラーザやあざみ野は非常に人気の駅で評価が高いが、市民にアンケート調査をすると、若い世代、特に20代は、住み続けたい、住みたいが10ポイント下がる。30代、40代は大体17ポイントぐらいが住み続けたくないと言っているが、若年層だけ27ポイントで10ポイント高い。この辺の分析や、今後の若年層の定着について青葉区としての考えをお伺いしたい。</p>
中島区長	<p>区民意識調査で愛着が高いとなっているが、一方で、今おっしゃった部分もあるかと思う。青葉区は多摩田園都市構想の下、良好な住環境の提供を理念に開発されてきた都市だと認識している。そういう意味では、区民意識調査で4割を超える方から、治安の良さや静かな住環境を青葉区に住む決め手としたというお答えを頂いている。こういうご意見は尊重しつつも、一方で、これから人口減少社会に向かっていく中では、様々な都市機能がバランスよくまとまっていることが大事ではないかと思う。良好な住環境ではあるが、そうしたバランスの部分で若年層の意向が低くなっているのではないかと感じる。今後、駅周辺や団地の再開発なども進んでいくので、それに合わせて、例えばオフィスなどの業務機能の誘致等を関係局にも働きかけながら、住みよい住環境とともに働く場所がある、そういう多様な機能を持った都市にしていくことが必要なのではないかと感じている。</p>
山下議員	<p>おっしゃるとおりだと思う。東急田園都市構想ができたのは戦後間もなくで、50年以上前、昭和40年代初頭から開発が始まってきたが、良好な住宅街として整備されたおかげで、非常に人気の高い高級住宅街として出来上がった。その結果、青葉区の現在の予算のすがたでも示されたように、横浜18区の中で1人当たりの住民税が一番高い。ところが、高い住民税を払っている割に、住民サービスの機能は決して高くはないと思う。前々から言っているが、1区1館制度はいいかげんにしてほしい、30万人の青葉区に図書館は1か所で、西区は人口9万人で中央図書館を持っている。高い住民税を払っている割に、シリウス（大和市文化創造拠点）がある大和のほうがいいじゃないかと。また、20万人の座間には立派な体育館があるので、青葉区のスポーツ関係団体の人は、青葉区で練習する場所がないからと座間の体育館を借りている。そう思うと、青葉区に住み生活することの満足度は非常に低い。これを青葉の課題として考えたときに、区づくりは1億しか予算が取れないから、積極的に区局連携をやりながら青葉区の住民満足度を上げていくという努力が必要だが、区職員の中では一歩足りないのかなと感じている。その辺を区長はどう考えているか。</p>

中島区長	<p>青葉区は非常に人口も多く、個人住民税も多く賦課されているが、区づくりの自主企画事業では大きなことができないというのもそのとおりである。18区の予算は、全市の予算の約1割にも満たず、残りの9割以上は局で配分したり執行しているので、区だけで何かするよりは局を積極的に区に引っ張り込み、局の予算をどんどん使って事業ができるように、職員と一緒に局にしっかり働きかけて、予算を確保していきたい。</p>
山下議員	<p>これからの10年後、20年後の青葉区をどうするかという視点が大事。東急田園都市構想は、50年後の今の住宅街を夢見てつくったが、これから50年が今のままでいいのかといえば、若い人はつまらない街だと言うわけである。たまプラーザ駅前に老人ホームができ、夜10時には誰も歩いておらず活力がない。なぜかは店舗がないからだが、出店意欲がないわけではなく、不動産屋で確認したが空き店舗がない。職住近接は青葉区マスタープランにも入っているが、駅前も含めて住宅専用なので、オフィススペースがない状況は変わらない。これは区だけではできない。これから区の20年後もしくは30年後、東急田園都市構想をつくったように50年先の青葉の街を考えたときに、活力のない高齢者だけの街になるような機能を持っているわけである。今から取り組まなければいけないが、今年度だけで何かできる話ではないので、準備を始めながら、青葉区が自立できる街として、30万都市にふさわしい都市機能として何が必要なのかを議論する必要があると思うがいかがか。</p>
中島区長	<p>おっしゃるとおりだと思う。50年前につくられた多摩田園都市構想が実現されているが、それは戦後、高度成長期の東京一極集中の中で、いかに良好な住環境を確保していくかという中でできたものだと思う。これから日本が人口減少社会に入っていく中で、これまでは首都圏や近畿圏に他から入ってきて競争があったが、これからは首都圏の中での都市間競争というのがますます激しくなってくると思う。その中で青葉区がどう勝ち残っていくかを考えると、これまでの財産は大事にしつつ、例えばたまプラーザの近くにある国有地の跡地や、区内の再整備をされている幾つかの団地に、50年後にこの地域で住み続けてよかったと思えるような都市機能をしっかりと呼び込んでいくことが必要。ぜひ先生方とも一緒にこれからその議論を進めていきたい。</p>
行田議員	<p>12ページの(1)イの複合的課題を抱える世帯への包括的支援について、8050問題を含め、この勉強会はしっかり進めてもらいたい。8050の言葉だけでは振り切れないことの中で社会問題化しているいろいろな事件が起きている。青葉区も他人事ではなく、現実の問題だ。例えば障害を持つ家庭ということでは手を挙げない家庭に、職員やプロの方が訪問して対応することにも尽力されていると聞く。どこまでやるかの課題があることは分かっているが、今、区役所として、こうした家庭に対して訪問や確認など、どういう取組をしているのか。</p>
倉田高齢・障害支援課長	<p>当事者の方々が支援を求めている中で、まず把握することの難しさを常に感じている。高齢・障害支援課だけではなくて、生活支援課やこども家庭支援課などの様々な課と連携して、区内にどういう世帯がどういう課題を抱えているのかを把握するようにしている。また、訪問をしたり電話相談を行う中では、関わり拒否のケースもあるので、一つ一つ丁寧にどういう関わり方がいいかを所内で検討している。その中で、区づくり予算を使って私たちのスキルアップにも努めているというのが現状である。</p>
行田議員	<p>頑張っていることは本当に感じているので、引き続きお願いしたい。さっき社会問題化と言ったが、いかに早期発見して把握するかという力が今求められているが、残念ながらそういう社会の状況になっているのかなと思う。今までももちろん、さらに頑張っていかなければいけない。見つける力とか、それによって支援する力をさらに蓄えて発揮しなければいけない。今の答弁もそのとおりだと思うが、この先、何だったらできるか、一歩踏み出せるかを伺いたい。</p>

<p>倉田高齢・障害支援課長</p>	<p>この先どうするのかということは本当に悩ましい問題である。青葉区の一つの特徴かもしれないが、他区に比べて経済的に困窮している方や、支援を求める方が少ない傾向があるので、喫緊の課題がなくても、家庭の中にいる方にどのようにして手を挙げていただくかは、大きな課題として認識している。引きこもり支援課もできたことなど、私たちが様々な支援メニューを用意していることをしっかりとPRすることと、地域の力を借りながら、困っている家庭にアンテナを張ってできる限りの支援をしていくような地道な努力をしていく必要がある。</p>
<p>行田議員</p>	<p>青葉区の特徴もあり、お金があっても、8050で家の中に入れない家が結構ある。今のルールではできることは限られているかもしれないが、一步超えることで多くの人を救える部分があるのならば、ぜひルールを変えるぐらいの前向きな行動を取っていただければと思うし、我々議会としても応援したい。</p> <p>もう一点、同じく12ページの一番下の(2)のイは意思決定支援に係る区民向け講演会は新規だが、非常に大変なものだと思う。8月実施だが、内容や今の準備状況、広報、どういう人を対象にどれぐらいの人数でやろうとしているのかについて、全体像を教えてください。</p>
<p>倉田高齢・障害支援課長</p>	<p>今はまだ企画段階だが、意思決定の必要性を区民にどのように理解していただくか、わかりやすい形で進める工夫が必要と思っている。終活講座という中で、例えば落語を活用して、入り口のハードルを下げる形でより多くの方に講座を受けていただけるようにするなど、現在企画中である。広報を通じて広く皆様に知っていただけるような形で周知したい。</p>
<p>行田議員</p>	<p>いい内容になるように期待している。</p>
<p>伊藤議員</p>	<p>25、26ページのまち活の関係は、地域のつながりを推進していくということでは非常に大切だと思っているが、ゲストスピーカーなどの選定基準や、今どのような状況で人が参加しているか、その効果をどのように捉えているかということをお聞きしたい。</p>
<p>帰山地域振興課長</p>	<p>まず、講師の選定基準は、区役所1階の区民活動支援センターの職員が日頃から相談などを受けている中で、こういった講師がいいのではないかと企画させていただいている。参加者は、最初から大人数を対象にせず、濃密なコミュニケーションや区民同士のつながりをつくっていただくために、定員10名から20名程度の講座や活動を重ねている。アンケート等々頂戴しており、前向きな感想や、次の講座に再度ご参加いただける展開から好評を頂いていると思う。</p>
<p>伊藤議員</p>	<p>大変いい取組だが、一部に限定された中で派生が広がっている感じがするので、さらに多くの方を結びつける様々な対策を考えていただけたらと思う。</p> <p>次に30ページの商店街の活性化の位置づけになるかと思うが、青葉台駅前の店舗で、今までは空き店舗になっても1週間程で次の店舗が決まっている状況だったのが、テナント募集後1か月以上たっても空いたままのところがあり懸念している。コロナ禍の影響があったのかもしれないが、そうした状況を区役所は把握しているのか。また、そうした課題に対し、どのように考えているか。</p>
<p>帰山地域振興課長</p>	<p>地域振興課では空き店舗の情報を把握はしていない。コロナ禍の影響等もあると思うが、5月から5類に移行したことに伴い、地域の活動や商店街のイベントが復活してきているので、今後の状況については注視していきたい。また、経済局では補正等で補助金強化のメニューも幾つか出しており、商店街を中心としたさらなる活性化の取組について、必要があれば区の補助金等の制度と一緒に支援したい。</p>
<p>伊藤議員</p>	<p>少し懸念するような状況で、今まで青葉台などは空き店舗がないことが自慢だった中で、今後それが悪い方向に流れてしまうといけないので、その辺の状況なども把握して、共に活性化に向けて頑張っていきたい。</p> <p>最後の40ページのデマンドバスの運行について、取り組む中で見えてきた効果や、今後広げていく上での課題や取組はどのようなものか。</p>

井波区政推進課担当課長	<p>デマンドバスは、昨年度、新石川地区で1月に1か月程度実施している。担当者などに話を聞くと、1か月の間ではなかなか目標まで達しなかったようだ。ただ、手応えとしては、周知していく中で後半に行くほど登録者数が増えてきた状況もあった。今年度はあざみ野や美しが丘にエリアを広げつつ、昨年度よりも期間を長く取ることと周知を徹底することで実験の効果が上がると期待し、実験に取り組んでいると聞いている。</p>
伊藤議員	<p>非常に重要な取組なので、しっかりと前向きに進めていただきたい。</p>
横山議員	<p>まず、シェアサイクルは非常にいい取組だと思うが、なかなか知られていないところが問題だと思う。青葉区の場合は、駅を利用してバスや徒歩で自宅や目的地まで行くスタイルなので、シェアサイクルは駅にあるのが一番いいが、駅にシェアサイクルがあって使えることの周知が必要だと思うが、いかがか。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>シェアサイクルはポートがどこにあるのかをもう少しアピールする必要性を当然感じている。また、シェアサイクルの仕組み自体のPRも必要と感じている。ポートは全部で24か所あるが、利便性を上げるために、もう少し数を増やす必要性は関係者で認識を共有しているので、公共用地の活用や東急と議論をしながら、ポートを増やして利用を上げていきたいと考えている。</p>
横山議員	<p>次の連節バスにも関わってくるが、バス便の数が少なくなってきたところほどそういった取組が必要だったり、あるいは、先ほどのオンデマンドバスもそうだが、バス便が少なくなってきたところで実験をする取組も必要だと思うがどうか。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>オンデマンドバスは、美しが丘で運行している。シェアサイクルに関しては今回、寺家にもポートをつくった。幅広くエリアを広げ、密度を上げることは当然必要だと思うので、ポート設立の議論をする中で参考にしたい。</p>
横山議員	<p>連節バスを運行することによって便利にならなければならないが、バス便が減少する傾向に歯止めがかからない問題がある。行政が責任を持たなければならないのは、家庭からの買物や直近の駅までだと思うが、玉川学園台から青葉台間は非常に長い路線で、その全体に責任を持つ必要があるのかという疑問はある。だとするならば、こどもの国駅、あるいは恩田駅までのバス便の確保に注力すべきだと思うが、ルート変更も含み駅を経由することについてはどのようにお考えか。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>ご質問があったのは、奈良から日体大まで行くバスルートの検討だと思う。以前、提案したルートでは、直行便ではなく日体大へ行くバスルートは商用施設の辺りを抜けるということで検討していた。その中でこどもの国駅にも寄るといことで、今、寄る箇所を増やすかどうか。増やすことで便数に影響が出るので、メリット・デメリットも含め地域の皆さんと意見交換をしている。地域からも鉄道とつながる大事さへの意見が出ているので、今後の動向次第だが、鉄道駅につながることにしても論点として議論中である。</p>
横山議員	<p>最後に、谷本公園の進捗を伺いたい。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>年を明けて2300平方メートルほどの土地が1つ購入でき、約5000平方メートルほど、12区が残っている状況である。大きな土地を1つ買ったので、引き続き環境創造局とも連携しながら用地取得を推進していきたい。</p>